

PTAを変えたラジオDJ



レモンさんの活躍

「イエイ、イェーイ！」とノリが
いいレモンさん。寒風の中でも
元気いっぱい。体調が今一つでも
盛り上げ役を買って出る、根っ
からのエンターテイナー。

山本シュウさんは、ラジオ
番組を中心に幅広く活躍するタレント
である。パワフルでノリの良いそのDJぶり
には定評があるが、
実は山本さんにはもう一つの顔がある。
名付けて、「レモンさん」。
レモンのかぶりものをした小学校のPTA会長として、
学校に旋風を巻き起こしたのだ。
子どもたちの心をわしづかみにし、
PTAを通じて大人たちに感動を呼び起こした
レモンさんの感性とパフォーマンス
とは、いったいどのようなもの
なのか。



レモンさんの誕生

PTAといえば、多かれ少なかれ「かかわるのは面倒」という先入観があるのではないだろうか。ラジオDJの山本シュウさんの認識も最初は似たようなものだった。

ところがある日、降ってわいたように「PTA会長に」という話が来た。一度は断ったが、選出委員達から「なり手がいない」、「人前でスピーチができないので、挨拶だけお願いしたい」と懇願されて引き受ける。しかし「長屋育ちで養ったおせっかいな性分」のせいで結局がむしやらにPTAの仕事をするようになる。

「“PTA会長”という肩書きは小学生にはかたすぎる。その子たちが大人になったらPTAに参加するのが当たり前になるように、お父さんとお母さん、かぶりものをしたおっちゃんもみんなと一生懸命学校を手伝っているイメージを見せたかった」

それにしても、なぜにレモン？

「ぶっちゃけ直感なんです。どうせかぶりものをするならさわやかなほうがいい、教育界は風邪をひいている、ビタミン不足や。だから教育界にビタミンC。それに黄色はピースで幸せな色。危険信号でもある」

初仕事である入学式の挨拶では、星条旗のシルクハットをかぶり“レモンさん宣言”。型破りなPTA会長のデビューである。

運動会の盛り上げ役として奔走

レモンさんの公約はまず、「運動会を盛り上げる」ことだった。なにしろラジオが本職、まずは放送係の子どもたちにプロの技を伝授。能力に応じてベストを尽くし、進歩を共有させることによって、可能性と潜在能力が子どもから引き出されてくる、そのすごさを痛感する。お弁当の「復活」も行った。

「誰一人として寂しい思いをさせんとこうと思って、“突撃となりの昼ごはん”と称してみんなのところを回りおかず交換をしたりした。本当の理由は、みんなが楽しく食べているかどうかのパトロール。だけどどこかの保護者が、“うちの子どもがレモンさんとゆっくり話せなかった、平等にできないならやめておくべき”と言ったと聞いたときはブチ切れそうになった。何にもやらへん人に限って文句だけ言う。フルタイムで働いている母子家庭や父子家庭などが大変だから、運動会のお弁当を取り

「愛は愛を引き寄せる、どんなにイヤな奴と言われていてもこっちは『愛している』と言えば、絶対に愛が出てくる。けれど、人間は憎悪も持っている。憎悪は憎悪を引き寄せる。感情的になったら必ず憎悪が出てきてしまう。」

「長所はめったなことでは怒らない。短所はメッチャ短気。頭にくることの多い世の中だから、しょっちゅう怒ると疲れる。だから怒らなくて済むようなことを考えるのがうまい」

PROFILE

山本シュウさん
SHU YAMAMOTO

1964年生まれ、大阪府門真市出身。1993年、スカウトされてアミューズ所属のタレントになる。ラジオパーソナリティ、テレビ司会者など多方面に渡って活躍する傍ら、我が子が通う小学校のPTA会長を5年務め、PTA活動に新風を吹き込む。現在はPTAの顧問。山梨英和大学や大阪大学で非常勤講師を務めている。DJとしてのレギュラー番組はFM-FUJI「SATURDAY STORM」（土曜日 17:00～21:00）、fm osaka「SHOO POWER REQUEST」（金曜日17:00～19:00）、同「SHOO POWER CAMP」（金曜日27:00～29:00）など。

やめるといふ考え方自体が逆に差別的。助け合っていくために何がホンマに大切なことなのかわからなくなっていることが情けない」と憤る。しかし、そういう人たちを切り捨てず、レモンさんは誰でも参加可能で準PTAといった位置づけの「サポーターズ」の会を結成、卒業式の改革や、夏休みのラジオ体操の実施などを新しく提案し、仕掛けていく。子どもたち1人ひとりを輝かせるための環境づくりに大人たちもやりがいを感じ、だんだん積極的になっていった。

「We are シンセキ！」 の精神

「小さい頃から誰とでもしゃべっていた。「男の顔をしたおばちゃん」というキャラが一番落ち着きますよ。大人が僕におせっかいをしまくって、それをありがたいと思ったから僕も自然におせっかいな人になった」というレモンさん。おせっかいはあたり前だと笑う。

「僕がずっと言っている言葉に、“We are シンセキ!”がある。人間は26~27世代をさかのぼると1億3千万人の命が繋がって自分の命にたどり着く。他人だと思っているけれど、全員血のつながった親戚やねん。

車に乗っていて無茶な運転で割り込まれたら、「危ないやろ!」と怒るけれど、運転しているのがメッチャ友達やったら『何やお前か』と許す。出会っているかないかの違いだけ。相手もたまたまミスしただけかもしれない。だから語尾に『危ないやろ!、親戚!』とつければ、テンションがガーッと下がって愛情も出てくるし、何よりイライラする時間が減ってハッピーになれる。ウソじゃないよ! 友達に対しても親戚やと思えばもっと優しく、もっとおせっかいができる。これを僕は“シンセキ・マジック!”と呼んでいます。

これはPTAの活動をしていても感じることでね。自分の子ではなく他人の子が卒業していくのに泣けてくる、感動する。愛おしい」

派手な外見にパフォーマンス。なかには反発する人もいたが、「文句を言うてくる人はそんなにいなかった。むしろ、黙っている人のほうが多かった」という。

「僕はこんなにしゃべる人間やけど、人の話は聴く。何かあれば連れ出してはしゃべり、聴き、フォローする。話を聴くということは、相手にとっては『この人は理解してくれている』という安心感につながるから、あんまりギクシャクせえへん」

レモンさんは真っ当なネゴシエーターでもある。

大人としての覚悟を持つ

5年間PTA会長だったレモンさんは現在、「顧問」の立場に変わって2年目になる。

「会長は得することばかり。僕が独占したらあかんで、毎年なり手を募っていました。二人三脚のようにもとやってきた副会長が会長を継いでくれます」

運動会の放送係の指導は今も続けている。PTAの相談にのることもたまにある。

「PTAで問題になる人が出てくるといつも言うのは、“よってたかってその人を愛そうよ!”ということ。『レモンさんだからできること』、『無理』という人がいるけど、そう思うような教育を受けてきたからで、やってみたらできる。もっと問題なのは、そんなこともできない大人社会で子どもが生きてきたと

頭にかぶっているレモンは3代目だとか。子どもたちに触られてヒビが入っているところもある



山本シュウ
Shoo Yamamoto Official Site
<http://www.yamamotoshoo.com/>



ラジオDJ山本シュウのレモンさん.net
<http://www.ed.shogakukan.co.jp/lemon/>



したら、子どもはうまくコミュニケーションができるわけがない。だから大人が変わらなければ何も変わらない」

「子どもの問題は全部、大人が悪い」と言い切る。レモンさんは大人としての覚悟がある。

「社会の管理者、責任者は間違いなく大人。どこまでが大人の責任で、どこまでが子どもの責任なのかは線引きできない。全部大人の責任だと思ってかからないと大人が“子どものせいや”と甘えることになる。子どもには逃げ場所がないねん」

カッコイイ大人とは

「リンククラブの読者にメッセージがあります」とレモンさん。

「少子化が進み母子家庭や父子家庭も増えている今、お互いが支えあえるコミュニティー作りができる大人にならなアカン。女の人に偉そうにものを言うたり、すぐ諦めたことを言うような男は、カッコ悪いと思います。」

それと、大人ぶるのはやめようということ。大人も間違えるし、わからんことがいっぱいある。子どもたちに教わることもある。頭ごなしで偉そうに言うのは子どもにとって一番うっとうしい。僕は自分が100%正しいとは思っていない。間違った時にすぐ謝れる素直さや、「できることを、できる範囲で、諦めない」という心を持っているか？ 今の子どもたちはすごい嗅覚でカッコイイ大人かそうでないかを見極めていきます。

macのシェアはこれだけ少ないのに、それでも僕の周りで使ってる人にはカッコイイ人が多いと勝手に感じています。だからこそ、macユーザーはいろんな場面でカッコイイ大人でいてほしい。若い奴の気持ちがわかる大人、頭ごなしじゃなく、人の話を最後まで聴き、理解しようという姿勢でいてくれる優しい大人でね」

PTA活動を通じて大人と子ども、あるいは大人同士をも結びつけるレモンさん。人の心に蒔いた種は、これからもたくさんの果実を実らせることだろう。

Text by : 藤野未央

「夫婦喧嘩をしない初級編の
コツは、憎悪が出てきそうになったら語尾に
ポヨーンをつける。『もう1回言うてみい！ ポヨ
ヨーン』。そんなの言われへんと思っていても騙されたと
思ってやると効果がある。仲がいいときに『喧嘩になりそうだったら
ポヨーンと言うから』と言っておくねん。どうしても言いにくいなら、
最後に『ポ』の一言だけでも、時間差で『……ポ』と言ってもいい。怒り
ながらでもなんでも、それを言うことは『喧嘩をしたくない』意思表示になると、
僕みたいに黒帯プロフェッショナルになると、
『あれやっつけ言うたやる！ 世界一愛し
てんのにどうしてお前は』と言える。
これをリスナーに言ったら
うまくいったと
大反響やった」



「レモンさんのPTA爆談」(著作料全額寄付)
ラジオDJ 山本シュウ著
小学館 1470円(税込)

「PTAも
仕事のあり方も
みんなやり方は同じ。
家族のような
もの」

